

どーらく 改題 逆説土楽たより

断捨離考

5月号(NO20)通巻 170号

2020年5月10日(日)発行(毎月10日)

【農暦】頑張り過ぎた体が痛い！

○コロナで“不要不急な外出自粛”と言われ、また“県外からの移動自粛”とも言われ、4月4日から笠間を離れたままである。“都内で働く女性が山梨の実家に、コロナ陽性の知らせを受けた朝に都内へ戻った”とのニュースには驚いた。よほどの事情があったのか、コロナ感染のリスクの認識のずれがあったのか。ニュースの表にない事情があったとしか思えない。ネットパッシングがあったと聞く。また、行き過ぎへの批判があったと云う。

○情報、ニュースの在り方(マスコミの政権チェック機能など)が問われるし、盲動に繋なげてはならないと思う。報道には同調圧力の増長に繋がらないよう配慮を望みたい。外出自粛が続きギスギスしたものを感じているからである。歴史は多くの過ち(デマで私刑)を教えている。

○相変わらず天気は激しく変わる。寒暖の差も、風も、雨もめまぐるしく変わる。だが雨が降れば大地を潤す“穀雨”で、新緑が鮮やかに彩り、晴れば“五月晴れ”のことば通り、爽やかな空が広がる。

晴れた日は外出自粛が、より一層疎ましく感じる。コロナ禍が嘘のようにさえ思えてくる。

○それにしても、丸々一ヶ月、笠間を不在にしている。トマト、茄子、ピーマンなどのミニ菜園の準備を少しずつ進めて来たのだが、元の木阿弥になっているのではないかと心配である。体力も気力も旺盛なら一挙に頑張れるのだが、一ヶ月のツケを思うと怖くなる。

○緊急事態宣言の6日まではと思っていた。予想してはいたが、延期になると聞き、さらに一ヶ月後(5月末)となると、夏野菜の植え込み時期を大きく逸脱してしまう。体力気力の落ち込みを考えると、畑は再起不能が容易に想像される。県外からの移動を自粛していたが、笠間行きを決める。3密を避けて、いつもの車で、1ヶ月と2日振りである。

○玄関周りが綺麗に除草されていた。ご近所さんがやってくれたのだ。嬉しく有難かった。他は荒れていた。家の中も、鉢の植栽は枯れる寸前?であった。郵便物の確認、草刈りから始めた。翌日に、草払機の燃料、苗など購入などし、トマト、茄子なども植え込んだ。除草など課題は残るが、2泊3日の農作業で、一か月前にほぼ?戻した。頑張り過ぎた体が痛い、久振りに充実した時間を過ごせた。新緑に囲まれ気分爽快である。(了)

【楽農】<畑>トマト、茄子、ピーマンなど、薩摩芋、里芋、生姜、食用菊の植込み。

農業資材片付け、草刈りなど残り多い。



<蔓葉海蘭の紫の小花>小さな庭を彩る、。8日撮影

【楽市】イベントなど；詩吟の会、共生の会、川柳の会の5月例会、TBGも中止継続。

【つぶやき=Tweet】司馬遼太郎の「この国のかたち」読む！

○外出自粛の生活の経験は、誰もだと思いが、初めてある。外派の私には、特に苦手な生活が始まった。小さな庭の枝切り、草花植込み、部屋、本、雑資料の片付け、新聞、読書、スケッチを始める。あっちをやったらこっちと、同じことが続かない。落ち着きのない子供と同じである。問題行動が多い。外出自粛から言葉が変わりステイホームが求められた。更に長期戦を感じた。この生活を受け入れるのに、心の準備が必要だった。



＜播種＞ホーリーバジルと極小トマトの育苗。8日撮影

○拘束されたこの時間を如何に使うかと考えた時に、堀江貴文さんが拘置所で読書したニュースのことが頭に浮かんだ。出張が多かった現役時代、新幹線での1人の時間の読書が楽しみだったことが思い出された。本棚の司馬遼太郎の「この国のかたち」1～5が目に留まり、読み始めていた。

○日本の歴史の読み解きが、素晴らしかった。特に、明治憲法から逸脱した軍参謀の昭和前期10数年は“あんな時代は日本ではない”の指摘には驚いた。改憲論議の危うさと護憲の大事さを思った。幕末時代の著作が多いが、明治維新は中途半端な革命と思っていたので、大きな革命だったとの指摘に思わず首肯していた。1巻目を一挙に読み終えていた。何故か、1-2巻が2冊ずつあった？新幹線の中で読んだ本の一つと思う。通読だったようだ。



＜阿修羅像＞草花から始めたスケッチ。稚拙過ぎ？1日撮影

○長い間やれないままだったことが少し出来た、雑資料の整理は、少し進んだし、本も読めた。この齡のタイミングで出来たことは良かった。コロナは社会の在り方を変えると
いうが、私の生活の在り方を変える時間になりそうである。立ち止まって見直す時間を作ってくれた。

○雑誌で“明日あるまじく候”細川護熙の座右の銘を読んで、自分ならではことを考えた。造語になるが、“苦楽同源”である。自己（人生）肯定感が持てる。同源を使った医食同源がある。似たようなことで、仏教では、苦楽一如がある。苦しみと楽しみは二つであって一つ、一つであって二つだと謂われる。苦楽同源とは、苦は克服すれば楽になる。楽を貪れば苦になる。同じ様だが少し違う。苦苦にはしたくない。最近、土楽から苦楽かなと思う。苦楽を綴ることで、共感を共有出来ればと思う（了）

○断捨離考：外出自粛はチャンスと、雑資料などの片付け整理を進めている。まだ一里塚！

【後記】五月晴れ、新緑がもったいない、新緑はい。新型コロナ恨む。【編集せずランダム構成】

発行者；小暮虎雄

住所；笠間市本戸4201-10

携帯電話；090-9333-4135

HP；kogure農場

メール；torao-k@nifty.com